

# VMware vRealize Orchestrator 8.2 Patch 1 リリース ノート

vRealize Orchestrator Appliance 8.2 Patch 1 | 2020 年 11 月 12 日 | ビルド 17157891

リリース ノートを頻繁に確認して、最新の追加情報や更新情報を入手してください。

VMware vRealize Orchestrator 8.2 Patch 1 は製品のマイナー パッチ リリースです。『[VMware vRealize Orchestrator 8.2 リリース ノート](#)』の内容は、このバージョンにも適用されます。

## リリース ノートの概要

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [Patch 1 へのアップグレード方法](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

## 重要

### KB 87120 の手順を実行した後にアップグレードが失敗する

KB 87120 に記載されている CVE-2021-44228 および CVE-2021-45046 log4j の脆弱性に対処するために使用される手順を実行すると、vRealize Automation および vRealize Orchestrator 8.6.2 以前でアップグレードが失敗する場合があります。回避策については、[KB 87794](#) を参照してください。

## Patch 1 へのアップグレード方法

公式のアップグレード手順に従って、vRealize Orchestrator Appliance を Patch 1 ビルドにアップグレードできます。「[スタンドアローン vRealize Orchestrator 8.0.1 展開のアップグレード](#)」を参照してください。

## 解決した問題

- より大きいサイズのパッケージをインポートすると、ステータス コード 500 でアップロードが失敗したことを示すメッセージが表示される  
デフォルトでは、インポートされたパッケージの最大サイズは 50 MB です。50 MB より大きいパッケージのインポートを試みると、アップロードが失敗したことを示すメッセージが表示されます。
- vRealize Orchestrator 7.6 からインポートされたコンテンツの一部が vRealize Orchestrator 8.x で削除できない

vRealize Orchestrator 7.6 から vRealize Orchestrator 8.x にインポートされたライブラリ ワークフローは、ライブラリ ワークフローが読み取り専用であるため、カスタム コンテンツの依存関係として削除することはできません。これらは vRealize Orchestrator 7.6 に存在していたものの、vRealize Orchestrator 8.x には存在せず、パッケージを使用してインポートされたものであることから、削除が必要になる場合があります。Git エラーは、vRealize Orchestrator 7.6 では有効であるが vRealize Orchestrator 8 では有効ではない文字を使用しているこれらのワークフローの一部に関連して発生する可能性があります。

- **アップグレード後、[待機中の入力] カテゴリにワークフロー トークンがゼロとして表示される**  
アップグレード後、[ワークフローの実行] と [待機中の入力] カテゴリに表示される待機中状態のトークン数が異なります。

## 既知の問題

- **vRealize Orchestrator スクリプトを使用して構成またはリソースを作成および更新すると、バージョン履歴が正しくないか、欠落する可能性がある**

vRealize Orchestrator スクリプト API を使用して構成とリソースを更新するとき  
に、`saveToVersionRepository` メソッドを明示的に呼び出さない場合、そのコンテンツのバージョン履歴は生成されません。これにより、アップグレード後に外部の Git 統合が追加された場合に問題が生じる可能性があります。

**回避策：**vRealize Orchestrator 8.2 Patch 1 にアップグレードする前に、必ずスクリプト API を介して行った変更を保存してください。[ナレッジベースの記事 KB81575](#) を参照してください。

- **vRealize Orchestrator 7.5 を vRealize Orchestrator 8.x に移行した後、Git の履歴でカスタム コンテンツが利用できない**

vRealize Orchestrator 7.5 を vRealize Orchestrator 8.x に移行した後、Git 統合を構成するときに、Git の履歴でカスタム コンテンツが利用できません。

**回避策：**移行されたすべてのコンテンツを Git のローカルの変更として表示するには、リポジトリに最初にプッシュする前にカスタム コンテンツを手動で編集して保存し、それを 8.x 互換の形式に変換します。その後、移行されたすべてのコンテンツを Git リポジトリにプッシュできます。

- **スケジュール設定されたワークフローの実行が、UTC 時間に時間オフセットされた予測時間とは異なる時間にトリガされる**

`*workflow.scheduleRecurrently()` \* 関数を使用するスクリプトを介してワークフローの実行をスケジュール設定すると、スケジュール設定されたワークフローは常に UTC 時間でトリガされます。UI はブラウザのタイムゾーンを繰り返しパターンに追加するため、vRealize Orchestrator クライアント UI と関数の動作の間には不一致があります。ただし、関数を使用する場合、タイムゾーンは繰り返しパターンに含まれず、ワークフローの実行をトリガする時間の計算は、サーバ側で UTC 時間で実行されます。

**回避策：**スクリプトでワークフローの実行をスケジュール設定する場合は、UTC 時間の値を使用します。

- **変数エディタで Regexp タイプの変数を適切に保存できない。エディタに正しくない値が表示される**  
この問題は、Regexp タイプの変数が文字列ではなく特殊なオブジェクトとして誤って解釈されるために発生します。

**回避策：**string タイプの変数は、Regexp 変数に相当するため、使用するよう切り替えます。

- **Orchestrator レガシー クライアントで作成されたワークフローが重複すると、値オプションに外部アクションではなく定数が表示されることがある。**

Orchestrator レガシー クライアントで設計され、vRealize Orchestrator クライアントで複製されたワークフローの入力パラメータを編集するときに、値オプションが外部アクションではなく定数として設定されることがあります。

**回避策：** [入力フォーム] タブに移動し、必要な外部アクションを含めるように入力パラメータのプレゼンテーションを編集します。

- **戻り値タイプの問題のため、入力フォームの外部ソースとしてアクションを選択できない**  
vRealize Orchestrator クライアントの [入力フォーム] タブで、デフォルト値または値オプションに対して Any または Array/Any のいずれかの戻り値タイプを持つアクションを選択できません。

**回避策：**

- 1.vRealize Orchestrator クライアントにログインします。
- 2.ワークフローを選択し、[入力フォーム] タブに移動します。
- 3.ウィジェットのデフォルト値または値オプションから期待される戻り値タイプを使用してアクションを設定し、変更を保存します。
- 4.デフォルト値または値オプションのアクションを選択してワークフローを保存し、アクションを以前のバージョンに戻すか、戻り値のタイプを Any タイプに戻します。